

長崎県高校野球公式試合時における遵守事項

令和4年3月一部改正
長崎県高等学校野球連盟
長崎県野球審判協会

1. 高校野球では、スピーディーなゲーム展開が期待されているので、グラウンド内は駆け足励行である。攻守交代時の全力疾走はもちろん、試合前の挨拶のための往復、ブルペンへの往復、選手の交代、伝令などグラウンドに入ってから退場するまでの行動はすべて駆け足とする。
2. 攻守交代時の、ベンチ前でのミーティングは速やかに終了すること。先頭打者及びベースコーチはミーティングに加わらないこと。
3. ユニフォーム・帽子・アンダーシャツ・ストッキング・アンダーソックス・ウインドブレーカー等の外部から見える表面にはいかなる商標・マークもつけてはならない。
【ユニフォームの表記は、校名・校章・県名または地名に限る。＜言葉は不可＞またヘルメットの表記についても、前頭部1ヶ所・後頭部に番号とする。ベルトは黒あるいは紺一色、スパイクは白・黒混同を可とし、エナメルは使用できない。】
4. 大会で使用するユニフォームは、一大会一種類とする。
5. 大会時、球場への出入り、球場内での全ての練習、オーダー交換は試合用ユニフォームとする。（球場外でアップをする場合、ティーシャツ使用可）
6. 試合前のシートノックは、チームと同じユニフォームを着用した者のみがノックをすることを許される＜靴は白色か黒色を履くこと＞。補助員はユニフォーム・ヘルメット・白または黒のシューズ着用とし、5名以内とする。〔フェア地域には入れないが、1・3塁ベースでの捕球とサブノックでの中継のみ認める。〕
7. 女子マネージャーが補助員をする場合は、必ず打者用ヘルメットを着用すること。
8. 両チームのプレイヤー及び補欠は、実際に競技にたずさわっているか、競技に出る準備をしているか、あるいは1塁または3塁ベースコーチに出ている場合を除いて、そのチームのベンチを出てはならない。
9. 高校野球では、部長・監督がベンチから出ることは許されていない。また、グラウンド内の選手へ指示するためにやむをえず“タイム”を要求した場合でも、選手をベンチに呼び寄せないで伝令を使うこと。相手チームが“タイム”をかけた場合も同じである。
10. ウェイティングサークル内＜必ず次打者が待機すること。投手も例外ではない。＞やグラウンド内にいる選手は投手が投手板に位置したなら、プレイに注目すること。
11. 打者がバッターボックスに入る時は、捕手及び球審の後ろを回って入ること。
12. 打者がサインを受けるときは、必ずバッターボックス内で受けること。
＜みだりに打者席をはずさない＞

13. 投手が球審からボールを受けたり、打者がバッターボックスに入るときの“礼”は、試合開始のときに挨拶を済ませているので不要である。
14. ベンチ前には、代打及び守備の準備を行なう者以外はみだりに出ないこと。交替要員としての準備の為のキャッチボールは、グラウンド内ブルペンの投球練習を除き2組（4人）までとし、ゴロ捕球練習は認めない。
15. 試合前及び試合の合間に、ベンチ内の選手がグラウンドに出て外野手とキャッチボールを行なってもよい。
16. 打者が走者となる時、投げ捨てられたバットを拾うため、次打者やバット引きの選手等、直接プレイに関係ない選手が出てきて妨害になることがあるので、この行為は止めること。球審がスピーディーに取り除くこと。＜捕手のマスク等も同様である＞
17. 試合中、ベンチ前にボール・バット等を放置しないこと。バット引きの選手も必要以外は出ないこと。
18. 打者走者アウト後のボール転送は一回りとし、最後の野手はその位置から投手に返球すること。無死又は一死で走者を牽制球等でアウトにした場合は、ボール回しは行なわない。
19. 攻守交代の時、最後にボールを持った選手はそのボールをピッチャープレートに置くこと。＜転がしたり、投げ捨てたりしないこと＞
20. 捕手は防護用ヘルメット（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、急所カップを使用する。また、練習時を含め、捕手が座って投球を受けるときは必ずマスク・ヘルメットなどの捕手防具を着用する。（但し、キャッチボールの時は防具を付けなくてもよい）
21. 投手が捕手のサインを見るときは、必ず軸足をピッチャープレートに乗せるか、付けていなければならない。なお、自由な足はプレート前縁より前に出してはならない。＜ワインドアップモーションの時＞サインは速やかに受けること。バッテリー間のブロックサインは禁止である。＜捕手←→投手＞
22. 投手のボークについて一番目につくのは、投げる塁へ直接踏み出さないことである。＜自由な足のステップがなく、上げただけでそのまま下ろしている＞ボークについて二番目に多いのは、軸足をプレート上で移行する動作がある＜牽制球を投げる時は、まず自由な足を先に動かしてから、軸足を回転させるか、軸足をプレート後方に完全に外して投げる＞
23. 公式戦は、ベンチ内に持ち込むことのできる物の制限があるので、その規則を把握して徹底すること。＜メガホン1個まで。（監督のみ使用可）鉄棒・バットリングは禁止＞
24. 審判のジャッジに対して疑義がある時は、主将・伝令または当該選手が納得ゆくまで説明を聞き、試合の後まで疑問を持ち越さないこと。
25. 負傷などで、テーピング（肌色に近いもの）が必要な選手がいる時は、オーダー交換時に同伴して確認を行なう。オーダー表に印を付けること。投手は不可。
手袋は、打者・走者共に両手に使用可。守備時の野手の使用も認める。（色は黒か白）
26. レッグガード・エルボーガードの使用を認める。（色は黒・紺・白）

27. 試合中、選手は服装（ユニフォームの第1ボタンをわざとはずしたり、ズボンの裾を必要以上に長くおろしたり）・頭髪（後を髪を長くのばしたり、染色等）・極端な眉剃り・ピアス等の見苦しい印象を与えるようなことは慎むこと。なお、ポケットに手袋・タオル・帽子等を入れる時は、外にはみ出さないよう注意すること。
28. ボールマンが試合に集中していないため、ファールボール等の回収が遅いことがあるので注意すること。球審からの試合球の要請を気付かない事が多々あるので、集中してボールを追うこと。
29. 投手のウォームアップ時に、次打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
30. 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。＜紛らわしい行為も慎むこと。＞
31. ベースコーチが打者走者（走者）の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーとコールをする行為を禁止する。
32. 野手がサングラスを必要とする時は、オーダー交換時に審判委員に申し出て使用の許可を得ること。黒・紺・グレー、[ミラーレンズは不可]の使用を認める。＜選手のみ＞
33. 捕手の膝痛を軽減するため、レガースのゴムバンド部分にパットの使用を認める。
34. スピーディーな試合進行を図るため、守備側・攻撃側とも「タイムの制限回数」＜高校野球特別規則＞を適用する。延長に入った場合は、毎イニングに1回、攻守ともタイムを取ることができる。
35. 試合到着遅れの選手の取り扱い
選手が、何らかの事情で試合会場に遅れて来た場合、その取り扱いを次の通りとする。
 - ① 試合開始の挨拶で両チームが整列するまでに到着しなければ試合に出場することはできない。
 - ② 大会本部がやむを得ないと認めた場合は、この限りではない。
 - ③ 試合出場が認められない選手であってもベンチに入ることは許される。
36. 試合開始前の負傷による選手変更の特例
メンバー交換の後、試合開始前の両チーム整列までの間に、メンバー表に記載された選手が、突発事故の発生により止むを得ず先発出場が不能となった場合、控え選手を交替出場させることができる。（出場不能となった選手の打順、守備位置に入れる。）その場合出場不能となった選手は試合に出場しなかったことになり、回復すれば以後の試合に出場することができる。